

# SMF Press

今号は、2010年度事業の総集編です。

## SMF2010— こんなこと・あんなこと!?

2か月に1度行われているアート井戸端かいぎの2010年度の最終回が、2月6日(日)埼玉県立近代美術館の一室で行われました。

今回のかいぎでは、お茶やお菓子を楽しみながら、一年間のSMFの活動を振り返りました。

実はこんなことがあった、あんなことがあったなどメンバーの中でも知らない話がたくさんできて盛り上がりました。たとえばこんな声も。たとえばこんな声も…



スズキと話そう④

真夏に行われた「アートピクニック:越谷再発見!」では、日中の気温が30度を超えていました。まち探検で立ち寄った天ぷら屋のおかみさんは、汗だくの私たちに冷たいブルーベリーを差し入れてくださったんです。それなのに私はすっかり全部ぶちまけてしまい大変失礼なことをしたんですが、参加者の方々に拾っていただいたり、おかみさんがさらに差し入れをくださったたり…。ほかほかと心が温まりました。

ダンサーの藤井香さんは雨女! いつも雨が降るんですね。しかし、「夜会」のATLIA会場では土砂降りにもかかわらず多くの方が集まり、野外のダンスでも熱心にダンスを見てくれていて感動しました。

川越で行われた「交差するまなざし」のワークショップでは、子どもたちが和紙作りに挑戦していました。葉や道端の石や大人にはゴミに見えるものも和紙にいれてすいていたのが印象的でした。おもしろい作品がたくさん出来上がっていました。

「音楽という表現の拡がりとともに」の柴山拓郎さんの作品もサウンドアートとして館内のエントランスで流れる音を作ってコラボしていましたね。自然音に近くて、すぐには気づかないけれど、耳を澄ますと聞こえてくるのがよかったなあ。

入間市博物館に「方丈庵」を設置したとき、館長さんが紅葉をとってきてくれて、方丈庵に飾ってくれました。前の晩から考えてくれていたみたいで、その紅葉がとても素敵で方丈庵に映えていてうれしくなりました。

「体感する美術—サウンドアートから」に参加してくれた作家の松本秋則さんの作品は、小さなモーターの動力が乾電池になっていたのにびっくり! 超ローテクでもこんな素敵な作品作れるのがスゴイ。宅配便で送った作品用のガラスのコップが数個割れていても、動じる素振りもなく笑顔で臨機応変の対応、さすがです。

1年間カメラマンをしていると、カメラのフィルター越しに人となりが見えてくることもありました。実は2枚連続で写真を撮っていて、わずかな時間の差ですが、どちらの方がよく撮れているか厳選していました。意外と後半に撮影した写真の方がいいことも多いんです。一つのイベントに800枚くらい撮影していたかな。パソコンが壊れるトラブルもあったりしましたが、200枚に厳選してお渡ししていました。

自称「アートテラー」の元吉本芸人トニーさんとmixiでつながって、建築ツアーに行ってきました。言葉巧みにアートについて話してくれて思わず「SMFプレス」の記事にしてみました。

途中何度も脱線して、色々なネタがでてくるのもSMFらしいところ。カメラマンの裏話やデザイナーの秘密など、ここでは書ききれないような楽しいお話のオンパレードでした!

特に私が印象に残っているのは入間で行われた「方丈庵・(き)がわりの

假具で自在の間を楽しむ」で発表された方丈庵の制作に、マイスター制度で来たドイツ人の方2人が関わってくれていたというお話。設計された三浦さんによると、「言葉の通じないなか、棟梁は、手技をみせることやレクチャーで指導をしていた。」とのこと。伝統といえぼ

の国独自のものというイメージがあったのですが、手技を磨くことは、国を越えて受け継がれるのだと感動しました。

色々な専門の方が集まっているので話はつきず、楽しい時間を過ごすことができました。話から話へ移り変わりながらも、新たな企画の話や発展的な話



### 川越市立美術館

川越市立美術館は「交流」をテーマに美術館に訪れる方の心を豊かにすると同時に、さまざまなアートシーンを創造しています。

現在、特別展では川越ゆかりの木版画家の内田静馬を紹介する「内田静馬—素朴美へのまなざし」を開催中! 桶川市出身で川越中学(現川越高校)卒業の内田静馬は生涯にわたる木版画の制作と普及に努めました。今回、はじめて内田静馬を大々的に紹介する貴重な機会として、静馬の目に映った素朴な美を感じながら、温もりのある木版画の世界をお楽しみ下さい。3月13日(日)まで。お急ぎ下さい!

#### ★美術館を積極的に楽しむ!

#### 「教育普及サポート・スタッフ」大募集

川越市立美術館では、22年度から美術館の教育普及事業の運営に参加し、自らの美術館利用を充実させるための市民ボランティアがスタートしました。活動はプログラムのサポートだけでなく、イベントの企画から運営も行うなど、16名が活動中。みなさんもぜひいっしょに美術館で大いに美術の活動を楽しんでみませんか?

23年度の新規登録は4月1日(金)から募集開始! くわしくはホームページまたは美術館までお問い合わせ下さい。



#### ■基本情報

川越市立美術館  
〒350-0053 川越市郭町2-30-1  
TEL (049) 228-8080  
FAX (049) 228-7870  
http://www.city.kawagoe.saitama.jpより、  
観光情報→美術館にお入り下さい。

もできて、来年度への期待が大きく膨らみました。アート井戸端かいぎは参加自由ですのでぜひ気軽に遊びに来て下さい。

今後のSMFの展開をお楽しみに! ご意見・ご感想・ボランティアスタッフも募集しています。(M.S.)



SMF 体験レポート

さいとう一が行く!

# 『wahっ〜!! と言いたくなる。』

ある寒い日、埼玉県立近代美術館がある北浦和から北に車で約30分の北本市に行ってきました。北本には wah (ワウ) さんのオフィスがあるのです。wah さんは12月に行われたラウンドテーブルでプレゼンテーションをくださったアーティスト。wah のお二方が関西出身だということが分かり、滋賀県育ちのさいとう一のテンションは上昇。関西から遠く離れた埼玉で出会えたことはいかのご縁だ!! と(一方的に)思い、今回オフィスにお邪魔してきました。

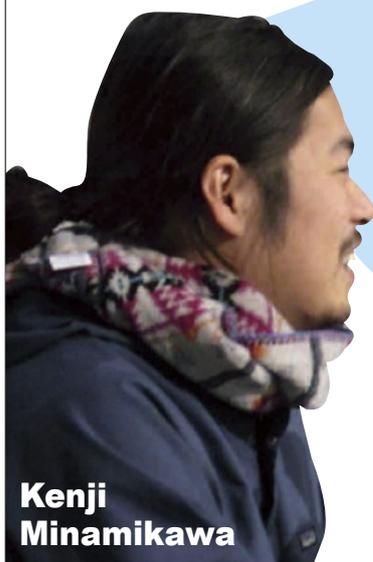
山水)、ヘリコプターで照明器具を空に飛ばしたりと、wah さんがされているプロジェクトには思わず「あほやなあ〜」と言いたくなります。しかし、ここで関東の方に誤解されると困るのは、この「あほ」が「愛のある『あほ』」だということです。

「何故このようなプロジェクトを続けているのですか?」と尋ねると、wah の南川さんは間髪入れず「それはやっぱりおもしろいことをしたいからです。」とおっしゃいました。wah さんのおもしろいとはどういうことなのでしょう? 『照明器具を飛ばす』というプロジェクトでは、ヘリコプターで照明器具を空に釣り上げる時、参加者や協力業者の人たちは「天気も悪いしどうなの?」と不安だったそうです。しかし、ヘリコプターが飛び

をみんなで共有できるのは参加型のプロジェクトならではの。もしも美術館で展示するとしたら、その背景をいちいち説明しなければならないでしょう。説明的な言葉を使うことなくフレッシュな感覚と時間を共有できることが「おもしろい」のではないかと思います。

現在進行中のプロジェクトは「自分たちで船を造って無人島に行く」というもの。無人島に行くのは、北本の子どもたち「はみ出し探検隊」。

wah と子どもたちは本気で向き合い、一緒に船を造っています。今は団地の広場で船を造ったり、無人島を探したりしています。なかにはどこにも無人島があるのか、詳細な資料を作ってくる子どももいるそうです。子どもたちのためにするのではなく、子どもたちと一緒にすることによって、よりおもしろいプロジェクトになるという wah さんの信念が根本にあるのです。「はみ出し探検隊」の初航海はゴールデンウィークの予定。さあ、wah さんのこれからの活動に注目です。(H.S.)



**Kenji Minamikawa**

wah さんの作品は子どもから大人まで、不特定多数からアイデアを募集し、それを実際にやってみようというもの。まずは、みんなで出し合ったアイデアの中から一番面白いものを選び出すことから始まります。決め方は多数決もありますが、なかにはアイデアが出た瞬間に全員一致で決まることもあるそうです。その時はみんなの気持ちがあぐーっと盛り上がり、話の雰囲気だけで「これだ〜!!」と結果が分かるそうです。公園の砂場を本気で石庭にしたり(まるで枯

立ち、照明器具の紐がピンと張って上空に上がると、下に広がる田んぼが畳に見え、何とも言えない感じがしたそうです。照明器具が空を飛び、空が天井に、田んぼが畳に見えた瞬間、その場にいた人たちはこのアイデアがただのアイデアから作品になったと感じました。この一瞬の感覚

## wah

各地へ赴き、そこで一般募集した参加者とその場で出し合ったアイデア、あるいはそのまちで集めたアイデアを即興的に実行する一過性の参加型表現集団である。現在は北本市を中心に活動している。  
<http://wah-document.com/wah.html>



団地内にある「はみ出し探検隊」の本拠地



出港をきこ船



wah Office

## 編集者のつばやき...

5号まで 出せた喜び 共有し また来年度 お会いしましょう!(M.S.) / 春が近いですなえ〜。(H.S.) / そうですなえ〜もう春ですなえ〜。(H.O.)